

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	約9年7ヶ月間（2016年2月8日～2025年9月12日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. アクサ・IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）（以下「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」といいます。）の受益証券 ロ. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーストック・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	①主として、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 ②当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態で、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時ににおいてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

ロボット・テクノロジー 関連株ファンド（年1回決算型） －ロボテック（年1回）－

運用報告書（全体版） 第3期 (決算日 2018年9月13日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－」は、このたび、第3期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（センター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<5691>

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			MSCI AC World指数 (配当込み、円換算) (参考指数)	期 中 騰 落 率	公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 記 受 益 証 券 組 入 比 率	純 総 資 産 額
	税 込 み 分 配 金	円 0	% 7.2					
1期末(2016年9月13日)	10,716	0	7.2	10,028	0.3	0.0	99.2	百万円 2,408
2期末(2017年9月13日)	15,196	0	41.8	13,019	29.8	—	97.8	10,790
3期末(2018年9月13日)	16,656	0	9.6	14,328	10.1	—	99.3	18,912

(注1) MSCI AC World 指数（配当込み、円換算）は、MSCI Inc. の承諾を得て、MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和投資信託が計算したものです。MSCI AC World指数（配当込み、米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、同指標に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注2) 海外の指標は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

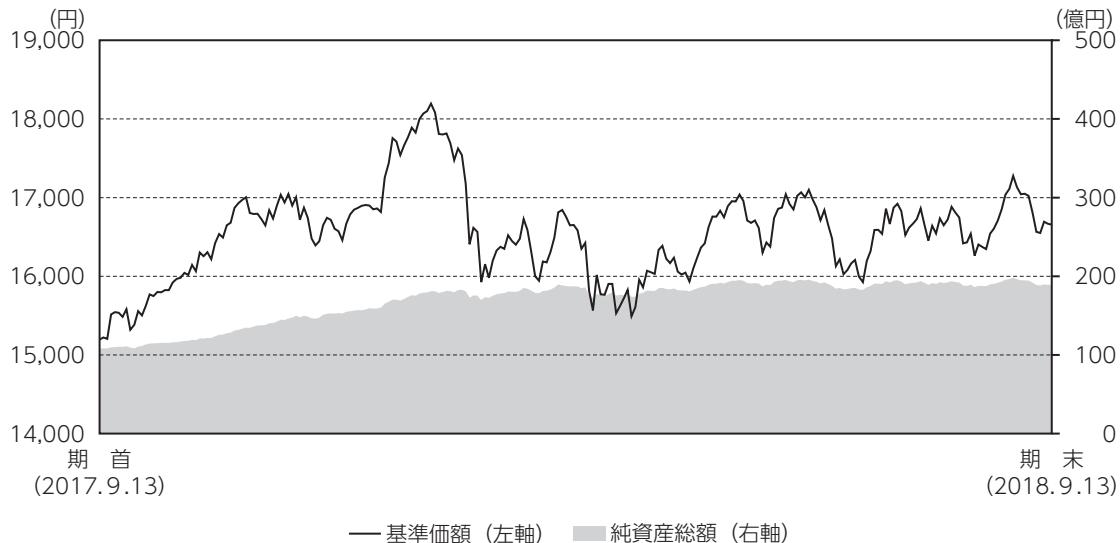
(注3) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



運用経過

基準価額等の推移について



■基準価額・騰落率

期 首：15,196円

期 末：16,656円

騰落率：9.6%

■基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、主に保有していた米国株式の値上がりがプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－

年 月 日	基 準 価 額	MSCI AC World指数 (配当込み、円換算)		公 組 入 社 比	債 率	投 受 組	資 益 入 信 証 比	託 券 率
		騰 落 率 (参考指數)	騰 落 率					
(期首) 2017年 9月13日	円 15,196	% —	% —		% —		% 97.8	
9月末	15,502	2.0	13,325	2.4	—		97.2	
10月末	16,493	8.5	13,701	5.2	—		97.7	
11月末	16,717	10.0	13,816	6.1	—		97.8	
12月末	16,817	10.7	14,215	9.2	—		98.2	
2018年 1月末	17,476	15.0	14,443	10.9	—		98.5	
2月末	16,586	9.1	13,817	6.1	0.0		98.7	
3月末	15,903	4.7	13,231	1.6	—		98.8	
4月末	16,046	5.6	13,768	5.8	—		99.4	
5月末	16,429	8.1	13,742	5.6	—		99.0	
6月末	16,081	5.8	13,783	5.9	—		99.3	
7月末	16,453	8.3	14,334	10.1	—		99.4	
8月末	17,131	12.7	14,523	11.6	—		99.7	
(期末) 2018年 9月13日	16,656	9.6	14,328	10.1	—		99.3	

(注) 謄落率は期首比。

投資環境について

(2017.9.14～2018.9.13)

■グローバル株式市況

グローバル株式市場は上昇しました（米ドルベース）。

グローバル株式市場は、世界的な景気回復や堅調な企業業績動向、米国の税制改革による企業利益の拡大への期待などが支援材料となり、期首から2018年1月下旬にかけて上昇基調となりました。2月上旬にかけては、米国の雇用統計が市場予想を上回り、米国の長期金利が急上昇したことなどを受けて、下落しました。3月中旬にかけて好調な決算発表などが支援材料となりいったん上昇したものの、4月上旬にかけては、米国トランプ政権が知的財産権の侵害を理由に中国製品に対する関税強化を表明すると、それに対し中国も報復関税を表明し貿易摩擦に発展する懸念が強まり下落しました。その後は、5月後半のイタリアやスペインの政情不安、6月後半の米中貿易摩擦への懸念の高まり、8月中旬のトルコ・リラ急落、9月上旬の米中貿易摩擦への懸念の再燃などのリスク要因から下押しする場面もみられましたが、おおむね良好な経済指標や好調な企業業績に支えられ、株式市場は上昇基調となりました。

■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

為替相場は円安米ドル高、円高ユーロ安となりました。

米ドル相場は、円安米ドル高となりました。期首から2018年3月末にかけては、米国のマニューション財務長官による米ドル安容認発言や株価が下落する中で市場のリスク回避姿勢が強まり、円高米ドル安となりました。期末にかけては、米中貿易摩擦への懸念が後退した局面や米国の金利が上昇した局面で、円安米ドル高が進行しました。

ユーロ円相場は、期首から2018年1月末にかけては、金融緩和の早期縮小が意識され円安ユーロ高となりました。期末にかけては、イタリアやスペインで政治の先行き不透明感が高まったことや、トルコ・リラが急落した局面で経済的結びつきが強い欧州への影響が懸念されたことから、円高ユーロ安となりました。

前期における「今後の運用方針」

■当ファンド

「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」（以下「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」といいます。）の受益証券の組入比率を、通常の状態で高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行ないます。「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カン

パニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業など、「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業、「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

英国のEU（欧州連合）離脱や米国トランプ政権の政策などをめぐる混乱がマクロ経済や企業の投資判断・事業計画などに与える影響については注視が必要となりますし、社会的なニーズ（新興国の賃金インフレ、高齢化による労働力不足）などロボット関連産業の成長を下支えする構造が底堅いことに加え、欧州と日本で緩和的な金融政策が維持されていることなどが、株式市場の支援材料になる見通しです。このような環境のもと、引き続き、成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行なうことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行なう方針です。

ポートフォリオについて

(2017.9.14～2018.9.13)

■当ファンド

当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券とダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当期は、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券を高位に組み入れました。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは、「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行ない、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアップル、アマゾン・ドット・コム、キーエンスのような大型株から、テラダイン、ライト・メディカル・グループなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国や日本を中心に投資しました。

当期は、センサーヤコネクターを製造・販売するスイスのTEコネクティビティ、米国の半導体会社シリコン・ラボラトリーズ、医療機器メーカーのホロジック、デザイン・ソフトウェア企業のオートデスクや、フランスの産業用オートメーション・制御機器メーカーのシュナイダー・エレクトリックを新規に組み入れました。一方、米国のジンマー・バイオメット・ホールディングス、ゼネラル・エレクトリック、英国のセンサーダ・テクノロジーズ・ホールディングスや、スイスのABBなどについては、より有望な投資機会へ資金を振り向けるため売却しました。

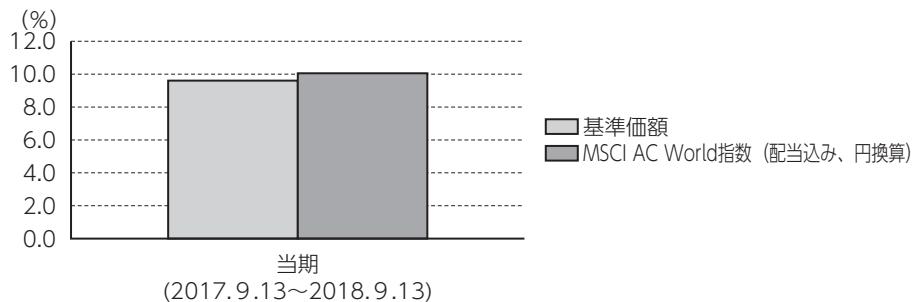
■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当期は、信託財産の成長を考慮して、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期	
	2017年9月14日 ～2018年9月13日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（%）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	6,655

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの收益率とは異なります。



今後の運用方針

■当ファンド

ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券の組入比率を、通常の状態で高位に維持することを基本とします。

■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

足元は貿易摩擦への懸念や米国の金利上昇圧力による景気減速懸念などの不透明要素がある中、グローバル株式市場は全般的に上値の重い環境が続いているが、当ファンドで投資する企業の多くは業績好調で、今後の事業見通しも良好です。2018年年初から8月末までの時点では、保有銘柄の収益の伸びは株価の上昇を上回っています。つまり、ロボットや自動化関連銘柄のバリュエーションは割安な水準にあるといえます。運用チームでは、企業のファンダメンタルズにフォーカスし、株価が弱含む局面があれば、中長期的に確信度の高い銘柄を積み増す好機として考えています。また、不透明感がある環境では、景気や短期的な需要のサイクルに左右されにくいヘルスケア・セクターやソフトウェア・セクターの組み入れが当ファンドのパフォーマンスを支えるものとみています。今後も、将来的に成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行なうことでファンドの成長をめざしてまいります。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

1万口当たりの費用の明細

項目	当期 (2017.9.14~2018.9.13)		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	201円	1.215%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は16,557円です。
(投信会社)	(63)	(0.378)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(134)	(0.810)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(4)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税=期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.008	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	203	1.223	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

投資信託受益証券

(2017年9月14日から2018年9月13日まで)

		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	千口	千円	千口	千円
		6,161,506.416	8,937,000	1,342,169.359	1,906,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当期末		
	口数	評価額	比率
国内投資信託受益証券 アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)	千口	千円	%
	12,838,107.875	18,773,165	99.3

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種類	期首	当期末	
		口数	評価額
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	千口	100	100

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年9月13日現在

項目	当期末		
	評価額	比率	%
投資信託受益証券	千円		%
	18,773,165		98.3
ダイワ・マネーストック・マザーファンド	100		0.0
コール・ローン等、その他	330,176		1.7
投資信託財産総額	19,103,442		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月13日現在

項目	当期末
(A) 資産	19,103,442,780円
コール・ローン等	330,176,806
投資信託受益証券(評価額)	18,773,165,145
ダイワ・マネーストック・マザーファンド(評価額)	100,829
(B) 負債	191,113,237
未払解約金	75,150,681
未払信託報酬	115,189,866
その他未払費用	772,690
(C) 純資産総額(A-B)	18,912,329,543
元本	11,354,764,977
次期繰越損益金	7,557,564,566
(D) 受益権総口数	11,354,764,977口
1万口当り基準価額(C/D)	16,656円

*期首における元本額は7,100,878,582円、当期中における追加設定元本額は8,851,251,272円、同解約元本額は4,597,364,877円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は16,656円です。

■損益の状況

当期 自2017年9月14日 至2018年9月13日

項目	当期
(A) 配当等収益	△ 129,882円
受取利息	30,822
支払利息	△ 160,704
(B) 有価証券売買損益	857,210,849
売買益	1,201,482,959
売買損	△ 344,272,110
(C) 信託報酬等	△ 206,844,251
(D) 当期損益金(A + B + C)	650,236,716
(E) 前期繰越損益金	857,722,839
(F) 追加信託差損益金	6,049,605,011
(配当等相当額)	(1,647,775,371)
(売買損益相当額)	(4,401,829,640)
(G) 合計(D + E + F)	7,557,564,566
次期繰越損益金(G)	7,557,564,566
追加信託差損益金	6,049,605,011
(配当等相当額)	(1,647,775,371)
(売買損益相当額)	(4,401,829,640)
分配準備積立金	1,508,089,452
繰越損益金	△ 129,897

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	650,315,967
(c) 収益調整金	6,049,605,011
(d) 分配準備積立金	857,773,485
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	7,557,694,463
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	7,557,694,463
(h) 受益権総口数	11,354,764,977□

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

<補足情報>

当ファンド（ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボティック（年1回）－）が投資対象としている「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の決算日（2017年12月11日）と、当ファンドの決算日が異なっており、当ファンドの決算日（2018年9月13日）現在におけるダイワ・マネーストック・マザーファンドの組入資産の内容等を11ページに併せて掲載いたしました。

■ダイワ・マネーストック・マザーファンドの主要な売買銘柄

公社債

(2017年9月14日から2018年9月13日まで)

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
723 国庫短期証券 2018/3/5	千円 220,001		千円
757 国庫短期証券 2018/8/13	200,001		
731 国庫短期証券 2018/7/10	150,000		
707 国庫短期証券 2017/12/11	130,001		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

2018年9月13日現在、有価証券等の組み入れはありません。

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

運用報告書 第8期（決算日 2017年12月11日）

(計算期間 2016年12月10日～2017年12月11日)

ダイワ・マネーストック・マザーファンドの第8期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年末満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

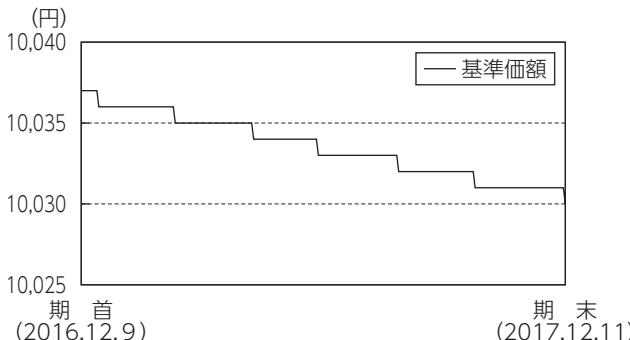
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 組 入 比	債 率
	円	%		
(期首)2016年12月9日	10,037	—	29.1	
12月末	10,036	△0.0	—	
2017年1月末	10,036	△0.0	31.1	
2月末	10,035	△0.0	25.2	
3月末	10,035	△0.0	—	
4月末	10,034	△0.0	35.6	
5月末	10,034	△0.0	6.4	
6月末	10,033	△0.0	0.6	
7月末	10,033	△0.0	0.1	
8月末	10,032	△0.0	—	
9月末	10,032	△0.0	—	
10月末	10,031	△0.1	—	
11月末	10,031	△0.1	—	
(期末)2017年12月11日	10,030	△0.1	—	

(注1) 謙落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なっており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・謙落率】

期首：10,037円 期末：10,030円 謙落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

低金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

期首より、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前期における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指標を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	一円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	0

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2016年12月10日から2017年12月11日まで)

国 内	国債証券	買 付 額	売 付 額
		千円	千円
		116,573,085	(128,940,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2016年12月10日から2017年12月11日まで)

当 期				
買 付	売 付			
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額	千円
645 国庫短期証券 2017/2/20	17,010,400			
657 国庫短期証券 2017/4/17	10,150,199			
652 国庫短期証券 2017/3/27	9,790,078			
642 国庫短期証券 2017/2/6	9,700,144			
659 国庫短期証券 2017/4/24	9,120,282			
651 国庫短期証券 2017/3/21	7,630,194			
669 国庫短期証券 2017/6/12	6,970,248			
644 国庫短期証券 2017/5/12	6,690,300			
638 国庫短期証券 2017/1/16	5,120,041			
660 国庫短期証券 2017/5/1	4,590,081			

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーストック・マザーファンド

■損益の状況

当期 自2016年12月10日 至2017年12月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 21,002,641円
受取利息	△ 3,317,956
支払利息	△ 17,684,685
(B) 有価証券売買損益	△ 4,086
売買損	△ 4,086
(C) その他費用	△ 329,559
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 21,336,286
(E) 前期繰越損益金	155,223,882
(F) 解約差損益金	△ 99,854,368
(G) 追加信託差損益金	57,367,196
(H) 合計(D + E + F + G)	91,400,424
次期繰越損益金(H)	91,400,424

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	約10年（平成37年9月11日まで）
運用方針	アクサ　IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド（以下、「マザーファンド」）の受益証券を通じて、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンド マザーファンドの受益証券 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（D.R.（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
ペビーファンドの運用方法	1. 主として、マザーファンドの受益証券に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行ないます。 2. マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 3. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。 4. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
マザーファンドの運用方法	1. 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行ないます。 2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行なうことを基本とします。 イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。 ロ) 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。 ハ) 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。 3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。 5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。 6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
組入制限	当ファンドのマザーファンド組入上限比率 無制限 マザーファンドの株式組入上限比率 無制限
分配方針	毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（繰越欠損額償填後、評価損益を含む）等の金額とします。 ②分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行わないこともあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ③留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。

アクサ　IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド (為替ヘッジなし)(適格機関投資家専用)

追加型投信／海外／株式

運用報告書（全体版）

第5期（決算日 2018年8月13日）

受益者の皆様へ

平素は格別のお引き立てにあざかり厚く御礼申し上げます。

さて、「アクサ　IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」は、このたび第5期の決算を行いました。当ファンドは、アクサ　IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドの受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連株式に投資することにより、信託財産の成長を目指します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

引き続き一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー14階
<http://www.axa-im.co.jp/>

《当運用報告書の記載内容に関する問い合わせ先》
電話番号：03-5447-3160
受付時間：9:00～17:00(土日祭日を除く)

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	基 準 価 額			株 式 累 紋 組 入 比 率	純 総 資 産 額
		税 分	込 配	み 金		
（設 定 日） 2015年12月8日	円 10,000		円	—	% —	% —
1期末(2016年8月15日)	9,145		0		△ 8.6	96.9
2期末(2017年2月13日)	11,170		0		22.1	97.4
3期末(2017年8月14日)	12,384		0		10.9	95.8
4期末(2018年2月13日)	14,072		0		13.6	97.5
5期末(2018年8月13日)	14,399		0		2.3	98.6

(注1) 基準価額および分配金は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期中の基準価額の推移

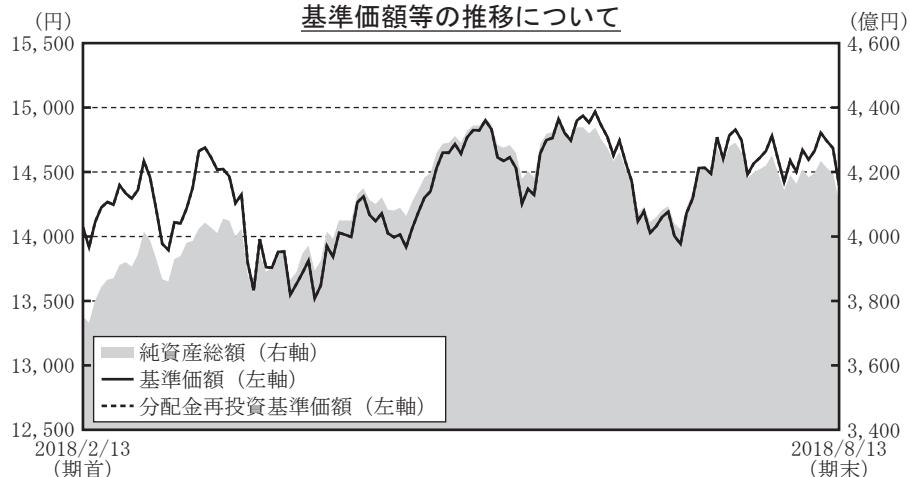
年 月 日	基 準 価 額	基 準 価 額		株 式 累 紅 組 入 比 率
		騰	落	
(期 首) 2018年2月13日	円 14,072		% —	% 97.5
2月末	14,459		2.8	96.6
3月末	13,880		△1.4	96.3
4月末	14,015		△0.4	97.4
5月末	14,369		2.1	97.3
6月末	14,077		0.0	97.6
7月末	14,422		2.5	97.9
(期 末) 2018年8月13日	14,399		2.3	98.6

(注1) 基準価額は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み、騰落率は期首比です。なお、当期は分配金はありません。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2018年2月14日～2018年8月13日）



期 首：14,072円
 期 末：14,399円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰 落 率： 2.3%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当期は、主に米国の保有銘柄の株価が上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

期初のグローバル株式市場は、米長期金利が上昇したことにより大幅に調整しました。3月には米国が中国に対して追加関税を発動したことから貿易摩擦懸念が高まり、市場は軟調な場面が見られたものの、次第に懸念が和らいだことや、良好な企業決算を背景に、回復基調へと転じました。しかし、6月に再び米国が中国へ追加関税措置を発表、翌日に中国が報復関税を発表するなど、貿易摩擦懸念が再燃し、グローバル株式市場は下落しました。好調な企業業績に支えられ再び市場は上昇したものの、拘束されている米国人牧師の解放をトルコが拒否したことから、8月にトランプ大統領がトルコへの輸入関税引き上げ等の制裁を表明し、グローバル市場は下落。期末には期初と比較してほぼ横ばいとなりました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の108円台から期末には110円台、ユーロ・円レートは期初の133円台から期末には125円台となりました。

米ドルについては、期初は米長期金利が急上昇したことを受けた円高ドル安が進行、一時105円を切る局面もあったものの、米朝首脳会談開催による米朝緊張緩和、好調な米国経済指標、パウエルF R B議長の段階的な利上げ示唆や、トランプ米大統領とユンケル欧州委員会委員長の会談により貿易摩擦に対する警戒感が和らいだことなどを背景に、円安米ドル高となりました。一方、ユーロはイタリアとスペインの政局不安が高まり、一時大幅なユーロ安となりました。その後欧州中央銀行（E C B）の金融政策正常化への期待が高まったことから円安ユーロ高に転じたものの、期末はトルコを震源とする不安が欧州に波及し、期初と比較して円高ユーロ安で着地しました。

【ポートフォリオについて】

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れています。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやアルファベット（旧グーグル）のような大型株からPTCやテラダイン、ナブテスコなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、自動運転、航空宇宙およびIOTの製品設計・開発に必要なシミュレーションソフトウェア市場で先導的な地位を占めている米国のアンシス、3D技術を使った製造・建設業向けのデザインおよびエンジニアリング向けソフトウェアの開発・サポートを行っているオートデスク、5月に米国の大手スーパーマーケットチェーンのクローガーヘシステム提供が決定した英国のオンライン専門スーパー「マーケット」のオカド・グループを新規に組み入れました。一方、米国の競合会社との激しい価格競争を繰り広げている日本の農業機器のクボタ、市場予想を下回る決算を発表したイスラエルの3Dプリンターメーカーのストラタシスを全売却しました。

【当ファンドのベンチマークの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【分配金】

当期は、基準価額の水準等を勘案し、収益の分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

	第5期
	2018年2月14日～2018年8月13日
当期分配金 (対基準価額比率)	— -%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,399

(注1) 「当期の収益」は「費用控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備設立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」および「当期の収益以外」の算出に当たっては、1万口当たりで小数点以下を切り捨てて表示していることから、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

○当ファンド

主要投資対象である「アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れる方針です。

○アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業に注目しています。

「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当運用チームでは、2018年は産業、ヘルスケア、自動車、テクノロジー、物流などの幅広い分野でロボット関連技術の導入が加速すると考えており、現在の経済環境において当ファンドの見通しは引き続き明るいと考えています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■1万口当たりの費用明細（2018年2月14日～2018年8月13日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	40円	0.281%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は14,367円です。
(投信会社)	(38)	(0.268)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(0)	(0.003)	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.011)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	2	0.015	売買委託手数料=期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(2)	(0.015)	
その他費用	1	0.007	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(1)	(0.007)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	44	0.304	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

■売買及び取引の状況（2018年2月14日～2018年8月13日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千口 36,144,856	千円 42,110,000	千口 15,009,489	千円 18,050,000

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買比率（2018年2月14日～2018年8月13日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	110,140,568千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	421,474,117千円
(c) 売 買 高 比 率(a) / (b)	0.26

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等（2018年2月14日～2018年8月13日）

期中の利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

■第一種金融商品取引業又は第二種金融商品取引業を兼務している投資委託業者の自己取引状況（2018年2月14日～2018年8月13日）

期中における当該事項はありません。

■組入資産の明細（2018年8月13日現在）

親投資信託残高

種 類	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 價 額
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千口 325,379,168	千口 346,514,535	千円 410,689,027

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

(2018年8月13日現在)

項 目	当期 末	
	評 価 額	比 率
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド	千円 410,689,027	% 99.5
コール・ローン等、その他	1,941,705	0.5
投資信託財産総額	412,630,733	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建資産（362,487,713千円）の投資信託財産総額（438,939,971千円）に対する比率は、82.6%です。

(注3) 外貨建て資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので、なお、期末における邦貨換算レートは1米ドル=110.56円、1台湾ドル=3.60円、1英ポンド=141.04円、1ユーロ=125.89円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2018年8月13日現在)

項 目	当期 末
(A) 資 産	412,630,733,066円
コール・ローン等	41,705,632
アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド(評価額)	410,689,027,434
未 収 入 金	1,900,000,000
(B) 負 債	1,857,775,907
未 払 解 約 金	699,999,999
未 払 信 託 報 酬	1,157,189,342
その 他 未 払 費 用	586,566
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	410,772,957,159
元 本	285,277,336,140
次期繰越損益金	125,495,621,019
(D) 受 益 權 総 口 数	285,277,336,140口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,399円
1. 期首元本額	266,534,687,607円
期中追加設定元本額	35,567,894,268円
期中一部解約元本額	16,825,245,735円
2. 1口当たり純資産額	1.4399円

■損益の状況

当期 (自 2018年2月14日 至 2018年8月13日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 取 受 利 息 支 払 利 息	△ 119,588円 5,017
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益 売 買 益 売 買 損	△ 124,605 10,157,738,351 10,900,952,433
(C) 信 託 報 酬 等	△ 743,214,082
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 1,157,797,165
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	8,999,821,598
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 當 額)	57,689,292,092
(G) 計 (D+E+F) 次期繰越損益金(G)	58,806,507,329
追 加 信 託 差 損 益 金 (配 当 等 相 當 額)	(55,707,769,178)
(H) 分 配 準 備 積 立 金	(3,098,738,151)
(I) 計 (D+E+F+G+H)	125,495,621,019

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,050,057,042円)、費用控除後の有価証券等損益額(6,949,764,556円)、信託約款に規定する収益調整金(58,806,507,329円)および分配準備積立金(57,689,292,092円)より分配対象収益は125,495,621,019円(10,000口当たり4,399.07円)ですが、当期に分配した金額はありません。

当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長を目指して運用を行ないます。
主要投資対象	日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式（D R（預託証券）を含みます。以下同じ。）および株式関連証券
運用方法	<ol style="list-style-type: none">1. 技術革新が進展することで、ロボットおよび自動システムならびにセンサーシステムが産業プロセス、交通、ヘルスケアおよびコンシューマー向けアプリケーションに、より一層統合されることを目指す分野に着目し、世界中の主としてロボット関連および自動システムに関する調査、開発、デザインおよび製作に従事する企業に投資することで、信託財産の成長を目指して運用を行ないます。2. ポートフォリオの構築にあたっては、次の方針で行なうことを基本とします。<ol style="list-style-type: none">イ) 日本を含む世界の金融商品取引所に上場している株式から、ロボット・テクノロジーに関連する成長テーマを特定し、金融・経済情勢などを勘案することで長期にわたり成長の可能性を有する企業群を投資対象銘柄とします。ロ) 投資対象銘柄の中から、中長期的にロボット関連事業が業績に対して大きな影響を有することが期待される企業に着目し、高度な技術力、強力な経営陣、価格決定力および業績上方修正の可能性などを考慮することで、組入候補銘柄を選定します。ハ) 選定した組入候補銘柄から、アクサ・インベストメント・マネージャーズの企業調査機能などを活用し、中長期的な業績拡大によって株価上昇が見込まれる銘柄を選択します。また、株価の上昇期待度、下落の余地やバリュエーションなどを考慮して組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。3. 株式および株式関連証券の組入比率は、原則として高位に維持します。4. 運用にあたっては、アクサ・インベストメント・マネージャーズUKリミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。5. 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないません。6. 資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。
株式組入制限	無制限

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

運用報告書

第3期（決算日：2018年8月13日）

（計算期間 2017年8月15日～2018年8月13日）

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	株 式 率			純 資 産 額
		期 謄	中 落	率	
(設 定 日) 2015年12月8日	円 10,000	% —		% —	百万円 95
1期末(2016年8月15日)	7,435	△25.7		96.8	108,241
2期末(2017年8月14日)	10,127	36.2		95.8	234,330
3期末(2018年8月13日)	11,852	17.0		98.6	436,627

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

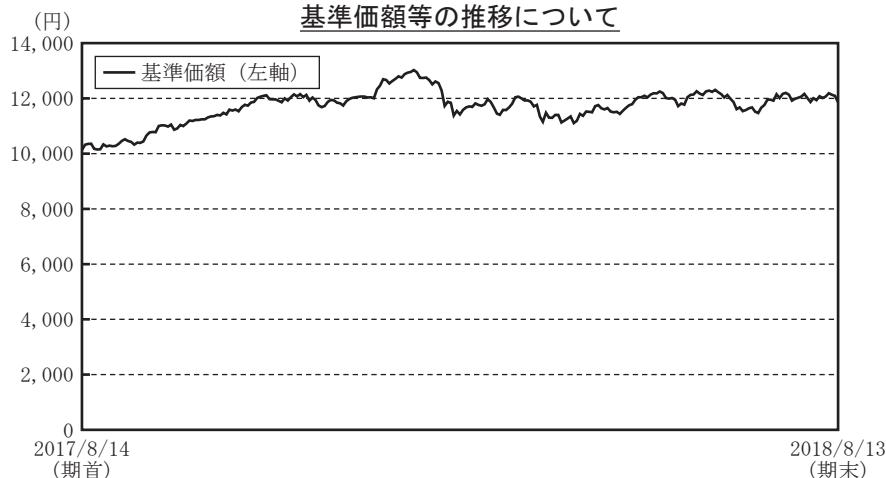
■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	株 式 率		
		騰	落	率
(期 首) 2017年8月14日	円 10,127	% —		% 95.8
8月末	10,461		3.3	95.9
9月末	10,997		8.6	96.4
10月末	11,736		15.9	96.8
11月末	11,916		17.7	96.3
12月末	12,005		18.5	95.8
2018年1月末	12,506		23.5	97.2
2月末	11,869		17.2	96.6
3月末	11,399		12.6	96.3
4月末	11,515		13.7	97.2
5月末	11,812		16.6	97.2
6月末	11,579		14.3	97.4
7月末	11,869		17.2	97.6
(期 末) 2018年8月13日	11,852		17.0	98.6

(注1) 基準価額は1万口当たり。騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ボトムアップの銘柄選定による運用を行うため、運用目標となるベンチマークや参考指数はありません。

■当期の運用状況（2017年8月15日～2018年8月13日）



【基準価額の主な変動要因】

当期は、主に米国の保有銘柄の株価上昇に加えて、為替市場で米ドルが対円で上昇したことがプラス要因となり、基準価額は値上がりしました。

【投資環境について】

○グローバル株式市場

期初のグローバル株式市場は、米長期金利が上昇したことにより大幅に調整しました。3月には米国が中国に対して追加関税を発動したことから貿易摩擦懸念が高まり、市場は軟調な場面が見られたものの、次第に懸念が和らいだことや、良好な企業決算を背景に、回復基調へと転じました。しかし、6月に再び米国が中国へ追加関税措置を発表、翌日に中国が報復関税を発表するなど、貿易摩擦懸念が再燃し、グローバル株式市場は下落しました。好調な企業業績に支えられ再び市場は上昇したものの、拘束されている米国人牧師の解放をトルコが拒否したことから、8月にトランプ大統領がトルコへの輸入関税引き上げ等の制裁を表明し、グローバル市場は下落。期末には期初と比較してほぼ横ばいとなりました。

○為替市場

為替市場では、米ドル・円レートは期初の108円台から期末には110円台、ユーロ・円レートは期初の133円台から期末には125円台となりました。

米ドルについては、期初は米長期金利が急上昇したことを受けた円高ドル安が進行、一時105円を切る局面もあったものの、米朝首脳会談開催による米朝緊張緩和、好調な米国経済指標、パウエルF R B議長の段階的な利上げ示唆や、トランプ米大統領とユンケル欧州委員会委員長の会談により貿易摩擦に対する警戒感が和らいだことなどを背景に、円安米ドル高となりました。一方、ユーロはイタリアとスペインの政局不安が高まり、一時大幅なユーロ安となりました。その後欧州中央銀行（E C B）の金融政策正常化への期待が高まったことから円安ユーロ高に転じたものの、期末はトルコを震源とする不安が欧州に波及し、期初と比較して円高ユーロ安で着地しました。

【ポートフォリオについて】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長を目指しました。具体的には、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体企業やソフトウェア企業などの銘柄を組み入れました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやアルファベット（旧グーグル）のような大型株からP T Cやテラダイン、ナブテスコなどの中小型株にも幅広く投資しています。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資をしています。

期中は、自動運転、航空宇宙およびI o Tの製品設計・開発に必要なシミュレーションソフトウェア市場で先導的な地位を占めている米国のアンシス、3 D技術を使った製造・建設業向けのデザインおよびエンジニアリング向けソフトウェアの開発・サポートを行っているオートデスク、5月に米国の大手スーパー・マーケットチェーンのクローガーへシステム提供が決定した英国のオンライン専門スーパー・マーケットのオカド・グループを新規に組み入れました。一方、米国の競合会社との激しい価格競争を繰り広げている日本の農業機器のクボタ、市場予想を下回る決算を発表したイスラエルの3 Dプリンターメーカーのストラタシスを全売却しました。

【当ファンドのベンチマークとの差異】

当ファンドは、特定のベンチマークによる制約のないアプローチを採用し、ファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップの銘柄選定にフォーカスした運用を行います。従って、運用目標となるベンチマークを設けておりません。

【今後の運用方針】

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当運用チームでは、2018年は産業、ヘルスケア、自動車、テクノロジー、物流などの幅広い分野でロボット関連技術の導入が加速すると考えており、現在の経済環境において当ファンドの見通しは引き続き明るいと考えています。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細（2017年8月15日～2018年8月13日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 （株式）	6円 (6)	0.049% (0.049)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 （その他）	1 (1)	0.013 (0.013)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
合計	7	0.061	

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しております。期中の平均基準価額は11,709円です。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況（2017年8月15日～2018年8月13日）

株式

内 国	外 国	日本	買付		売付	
			株数	金額	株数	金額
内 国	外 國	日本	千株 11,329	千円 39,852,946	千株 4,840	千円 14,523,252
	アメリカ		百株 196,776 (6,845)	千米ドル 1,334,235 (△8,822)	百株 66,027	千米ドル 344,910
	台湾		32,320	千台湾ドル 760,506	3,590	千台湾ドル 82,375
	イギリス		15,008	千英ポンド 15,887	76	千英ポンド 80
	スイス		7,517	千スイスフラン 18,742	23,768	千スイスフラン 52,042
	ユーロ			千ユーロ		千ユーロ
	オランダ		7,168	23,985	803	2,887
	フランス		11,485	78,423 (△885)	645	3,629
	ドイツ		31,790 (5,733)	167,248 (△706)	2,325	12,474

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) () 内は増資割当・株式転換・合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切り捨て。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合（2017年8月15日～2018年8月13日）

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	291,351,176千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	368,396,670千円
(c) 売買高比率(a)／(b)	0.79

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

